

特41

756

橋本愛

256

237



槍舟慶

長之西塔入かゝらに位津尾坊

舟慶少く我宿新乃子細あつて

五季此天科(母)の時まうでとて休

休(日)海美(子)子(親)よ(母)今(と)まら

き(や)とぬ(休)ら(に)根(音)の(音)あ(よ)ゆ

又(案)乃(天)神(入)ま(ら)う(う)ま(ま)あ(ま)く(音)ぞ

3.21  
内交



心えく 畏て 冥中 轉るる  
乃の 明日 五葉の 信と 通りの 伝ふ  
十二 平成 といふ あり 未だ 未だ 未だ  
切て なる 伝ふ あり 未だ 未だ 未だ  
今 由よ 先と 今 未だ 未だ 未だ  
思ふ 思ふ 思ふ 思ふ 思ふ 思ふ  
信者 信者 信者 信者 信者 信者

鬼 邪ありとも 大 畏るる 叶ま あり  
む せむ せむ せむ せむ せむ せむ  
よ 坊つ けん せむ せむ せむ せむ  
み せむ せむ せむ せむ せむ せむ  
は せむ せむ せむ せむ せむ せむ  
身 せむ せむ せむ せむ せむ せむ







たのむがらう後浪まむらぬきらつゆ  
乃々身のたのむ事まふ格れき  
板をたのむ海もつらとるあらし音  
ま輝よあまの夜よ雨ふくさう流  
ゆたさく一書まむらうあま明  
かへりむたをの鐘まむらもの雲乃  
まむらむらむらむらむらむらむらむらむら

くたさむらむらむらむらむらむらむらむら  
まむらあむらむらむらむらむらむらむらむら  
むら長カあむら中むらむらむらむらむら  
あむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
神ありまむらあむらむらむらむらむらむら  
あむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
あむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
あむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
あむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら



平とちや更シテかぬ槍の面シテの道シテの人は  
あつたやうにさしつゝあつたやうに  
<sup>シテ</sup>年慶シテさへたきらぬさうのうの槍  
板とぎらへしあいらちあつたやうに  
<sup>牛若</sup>牛若シテのさしあつたやうのさしあつたやう  
新シテや入シテかぬさうシテのさしあつたやう  
うシテのさしあつたやうシテのさしあつたやう

<sup>シテ</sup>年慶シテのさしあつたやうシテのさしあつたやう  
と思シテかぬさうシテのさしあつたやう  
乃シテのさしあつたやうシテのさしあつたやう  
<sup>牛若</sup>乃シテのさしあつたやうシテのさしあつたやう  
のさしあつたやうシテのさしあつたやう  
あつたやうシテのさしあつたやう  
長シテ刀シテやうシテのさしあつたやう  
長シテ刀シテやうシテのさしあつたやう  
長シテ刀シテやうシテのさしあつたやう



見せし羊あはれ程と切くうを半わ  
の切もあわぐははの目をおつくとす  
夜引のき所を志所くした刀懸きを  
あひくは用ひたる長刀は時  
まふ太刀打何をもせつあひひらした  
うひの行とあきりきん羊もら半  
あよめさるかんえかたのきぬく

うの太刀はあはれ程と切くうを半わ  
の切もあわぐははの目をおつくとす  
夜引のき所を志所くした刀懸きを  
あひくは用ひたる長刀は時  
まふ太刀打何をもせつあひひらした  
うひの行とあきりきん羊もら半  
あよめさるかんえかたのきぬく



志くはつとひついでしむるにあらむ  
 て是まためい田所に入るを地  
 おつちぢらんとすか長刀つちあは  
 せしつちんらあまのつちをく  
 せむらふつちのつちをいひしむ  
 なるて年慶のつちあるはつち  
 あつちをくそつちをくつちをく

新米はつちをくつちをく  
 か程きのつちをくつちをく  
 乃ちつちをくつちをく  
 乃ちつちの係牛君牛君上つちをく  
 休はつち西塔乃武苑年慶ありは  
 久業合久業合陸集申つちをく  
 大つちのつちをくつちをく



256  
237 複製不

宗家  
親世

明治世二年六月廿五日從  
同 世四年一月廿八日迄 出版御届済  
同 四十三年四月廿五日從  
同 四十四年十月廿五日迄 再版  
同 四十四年三月十五日別製本御届

發行兼  
印刷者

京都市上京区三条通美屋町東丸第

槍 常 之

(特電) 二五  
報警 對金 六限 三



訂正者 親世清

あがきいもあがきいも...  
 又二世は特縁の...  
 後...  
 せむり毎慶...  
 乃所可...  
 (Vertical handwritten text in cursive style)



